2010. 1. 29

The Japan Academy of Midwifery Newsletter No.61

# 日本助産学会ニュースレター

発行所　日本助産学会
〒111-0054
東京都台東区鳥越２－12－2
日本助産師会館３階
電話・FAX　03－3866－3032
e-mail：jam1987@ninus.ocn.ne.jp
代表者　堀内成子

巻頭言

## 「新卒者に聞く！日本助産学会活動への期待と夢」

広島大学医学部保健学科　藤田佳織

私が母になったのは、６年前のクリスマスイブの午後でした。「自分で産んだんだ！」という大きな達成感と幸福感とが押し寄せて、私自身が「生まれてきてよかった」と感じました。出産は「母になるための辛い試練」だと思っていたのに、「産むこと」そのものが、こんなにも心地よい満ち足りた経験だったなんて。あと５人産みたい、いや生命の誕生に立ち会うことを仕事にしたい。西日が優しく降りそそぐ分娩台の上で「助産師になろう」と決めました。

長男が１歳になった春、私は勤めていた会社を辞め、29歳で２度目の大学生になりました。初めて触れる、看護、助産の世界でした。奇しくも同じころから、社会ではお産をめぐる様々な問題が取り上げられ始めました。島根県隠岐の島から産科医がいなくなり、島での分娩ができなくなったというニュース。妊婦のたらいまわし事件なども大きく報道され、産科医療の疲弊が叫ばれると同時に、助産師の活躍を求める声が聞かれるようになりました。助産師という夢が私に降りてきたタイミングは、きっと運命だったんだ！そう思い、長男と在学中に生まれた次男を追いかけ回しながら、懸命に勉強する日々が続きました。けれど、このころの私は、「学ぶこと」を、まるでかつてのお産のように、「助産師になるための辛い試練」だと感じていたと思います。

初めて臨床の場でお産を見たのは、昨年秋の助産実習でした。実際に一つの命が生まれてくる過程は、本当に神秘的で力強さに満ちていました。目の前の母子の姿に圧倒されながら、まっさらな命を一番に抱かせていただける、その責任と幸せをひしひしと感じる日々。安全に安楽に、満ち足りたお産をしてほしい。心からそう思った時、「学ぶこと」の意味が変わりました。お産の現場で感じた疑問の答えを調べることは、頭も心も総動員する生きた勉強でした。

新しい何かを理解できた時、それを次に会う産婦さんのために生かせるという喜びを感じました。分娩介助には、怖さと責任が必ず伴うと思います。その怖さと向き合って、乗り越えるために、勉強をする。一つとして同じお産はなく、助産師は一生学び続けることができる。学ぶことそのものにも喜びがある職業だと、今あらためて思っています。

実習で出会った先輩方が、日々の業務の傍ら積極的に文献を手に取り、目の前の産婦さんのケアに生かそうとされていた姿はとても印象的でした。まだスタート地点にも立っていない私は、日本助産学会について何かを述べるほどの土台を持ちません。けれど、怖さを抱えて命と向き合う助産師にとって一生続く学びの、道標のような存在ではないかと思います。不安や疑問に出会ったときに、いつでも立ち寄れる身近な場所であればいいなと。命の誕生を支えるために、常に自身を磨きたいという思いを持って、扉を叩かせていただきたいと思います。

## 第24回日本助産学会学術集会のお知らせ（第３報）
# 「助産を育む　Raising Midwifery」

2010年３月20日（土）・21日（日）の両日、第24回日本助産学会学術集会をつくば市のつくば国際会議場にて開催いたします。

今回は、学術集会テーマ「助産を育む」を通じて、子どもを産み育てることを助ける助産という行為を、様々な視点で拡げ、深めていきたいと考えております。発表演題は140題となりました。最新の英知に触れ、かつ分かち合い、新たな知と実践の創造の機会となることと思います。

主なプログラム詳細情報については、ホームページ（http://www.macc.jp/jam2010ibaraki/）でご案内します。また、様々な企業によるランチョンセミナーの実施や展示が行われます。さらに、妊娠・出産・母乳育児・子育て支援・女性の健康支援等の活動を行っている自主グループの参加も多数ありますので、有意義な情報交換なども活発に行われるものと期待しております。何よりも、皆様の多数のご参加により、「助産」をめぐる研究・実践の蓄積が社会に希望をもたらす力となることを願っております。企画委員一同皆様のご参加を心よりお待ち申し上げております。

第24回日本助産学会学術集会会長　加納尚美

企画運営本部　茨城県立医療大学看護学科　大会実行委員長　島田智織

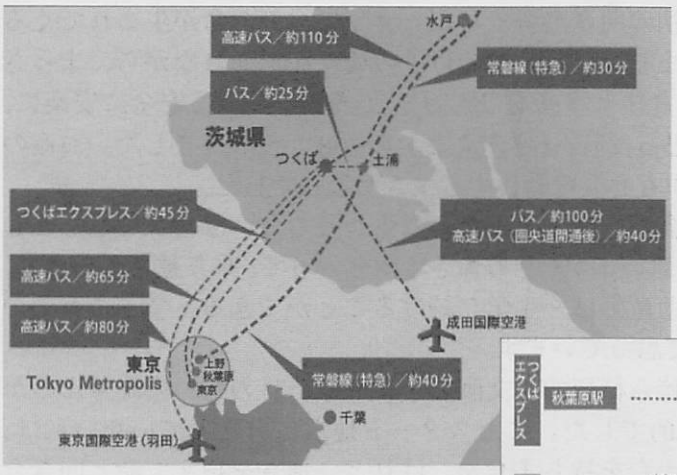
【 お問合せ：第24回日本助産学会学術集会事務局 】

〒102-0083東京都千代田区麹町４-２-６第２泉商事ビル５Ｆ

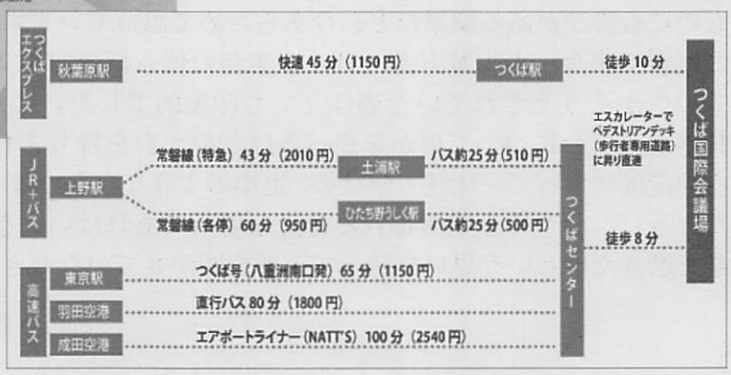
㈱ＭＡコンベンションコンサルティング　　電話03-5275-1191（FAX 1192）　　e-mail：info@macc.jp

### 第24回日本助産学会学術集会

○ 会　長：加納　尚美　（茨城県立医療大学教授、日本助産学会理事）
○ 会　期：平成22年３月20日（土）～21日（日）
○ 会　場：つくば国際会議場（〒305-0032 茨城県つくば市竹園２-20-３　TEL：029-861-0001）
○ 学会参加費　／　会員：12,000円
　非会員　（医療職）：15,000円（医師、助産師、看護師など）
　非会員（医療職外）：5,000円（一般、一般学生、助産師学生など）
○ 懇親会参加費：7,000円　つくば国際会議場１階　レストラン・エスポワール




つくば市の位置とアクセスルート

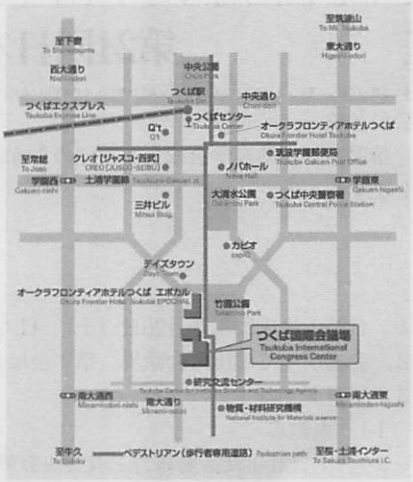


## 会場と周辺地図

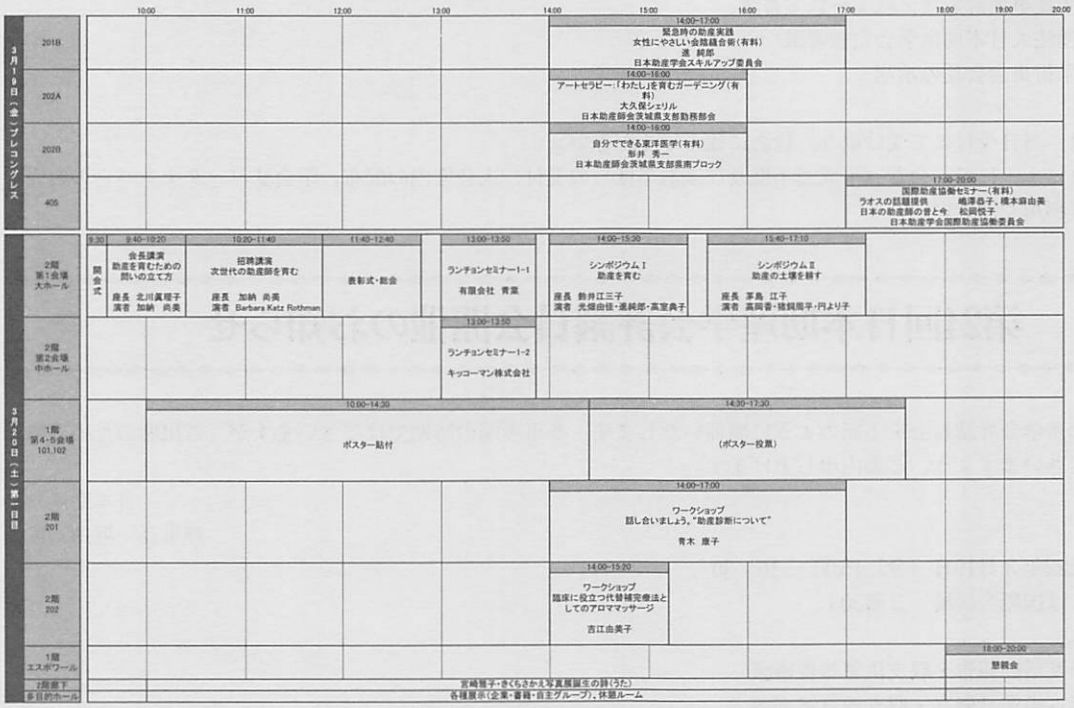
つくば国際会議場オフィシャルウェブサイト

http://www. epochal. or. jp/index. html

より抜粋




## 第24回日本助産学会学術集会　タイムテーブル



# 第24回日本助産学会総会開催のお知らせ

会員各位

第24回日本助産学会総会を下記のように開催いたします。万障お繰り合わせの上ご出席くださいますよう、ご案内いたします。

日本助産学会
理事長　堀内　成子

記

1．日時：平成22年３月20日（土）　11：40～12:40
2．会場：つくば国際会議場　第１会場２階大ホール
3．プログラム
　1）　表彰式
　2）　平成21年度活動報告・収支決算報告審議
　3）　平成22年度事業計画案・収支予算案審議
　4）　一般社団法人日本助産学会定款審議
　5）　第26回学術集会会長の承認

＊　総会要綱は、当日受付にて受け取り、総会に臨んでください。
＊　学会本部コーナーにて、会費（平成22年度及び未納年度）の受付、入会案内の配布、学会誌バックナンバーの販売をします。ご利用ください。

# 第24回日本助産学会評議員会開催のお知らせ

評議員各位

弟24回日本助産学会評議員会を下記のように開催いたします。多事多端の時期ではございますが、ご出席のため万障お繰り合わせくださいますよう、ご案内申し上げます。

日本助産学会
理事長　堀内　成子

1．日時：平成22年３月19日（金）15:00～16：30
2．会場：つくば国際会議場　３階303
3．プログラム
　1）平成21年度活動報告・収支決算報告審議
　2）平成22年度事業計画案・収支予算案審議
　3）第26回学術集会会長の選出

# 平成21年度日本助産学会表彰受賞者

表彰関連選考委員会　平　澤　美恵子

日本助産学会功労賞：　村山　郁子　氏　（元新潟大学医療技術短期大学部専攻科　助産学特別専攻教授）
日本助産学会学術賞：　正岡　経子　氏　（札幌医科大学保健医療学部看護学科　講師）
日本助産学会奨励賞：　瀧澤　和子　氏　（瀧澤助産院　院長）

# 国際委員会からのお知らせ

国際委員会　石川紀子、大石時子、加納尚美

▷　ICM公式ホームページがリニューアルされました。

ICMからのニュースレター「Journal of the International Confederation of Midwives」は年４回、ICMの活動や世界の助産師の活躍、また周産期医療の現状など紹介されています。今回のホームページには「Midwifery Journals」の中で「Midwives Online」2009年９月から11月までのニュースレターと、「WHO Patient Safety　News Letter」2009年９月No.1も掲載されています。皆様もどしどしアクセスして世界の助産師の活躍をご覧ください。

www. internationalmidwives. org

▷　第29回ICM大会が2011年６月19日から23日に南アフリカのダーバンで開催されます。

いよいよ来年にせまってきました。プログラムなどの情報は以下のアドレスに紹介されています。

www. midwives2011.org

▷　第24回日本助産学会学術集会が３月20日から21日つくば国際会議場で開催されます。

今回国際委員会では「日本の助産師！もっと国際学会で発表しよう！！」というテーマのワークショップを企画しました。日本では助産教育の高等化とともに助産研究がさかんに行われ発表されていますが、国際学会ではまだまだ口頭による成果発表は少ないのが現状です。そこで今回、語学コミュニケーションの専門家が英語による発表のコツをお話します。国際学会で発表しようかな…でも英語が……、という皆さまのご参加を心よりお待ちしております。事前申し込みは必要ありませんので、直接会場にお越しください。

**日　　時：2009年３月21日（日）10：30-11：50**
**場　　所：つくば国際会議場　２階202**
**コメンテーター：Ｎ．Ｄ．パリー（茨城県立医療大学 保健医療学部人間科学センター 准教授）**
**司　　会：小黒道子（聖路加看護大学）**
**プログラム：1.英語を使っての学会発表にむけて：パリー**
**2.英語による学会発表シミュレーション：国際委員会委員**
**3.質疑応答**

▷　第８回ICMアジア太平洋地域会議にて、日本助産学会のツアーを企画しました。

参加者は国際委員２名のほか１名でしたが、次頁のような報告をいただいております。国際委員会では来年の南アフリカでの　ICM大会のツアーについても企画する予定ですが、今後皆様から内容、広報方法等ご意見をいただけたらと思います。

▷　国際助産師連盟（ICM）アジア太平洋地域会議報告

第９回国際助産師連盟（ICM）アジア太平洋地域会議が、2009年11月19～22日の期間にインドのハイデラバード市にて開催されました。今回は、2000年に結成されたばかりのSOMI（Society of Midwives-India:インド助産師会）が主催し、事務局はANSWERS（Academy for Nursing Studies and Women's Empowerment Research Studies：看護と女性のエンパワーメント研究学会）が行い、大会長はPrakasama博士でした。総勢520人の助産師および多職種が集まりました。大部分がサリー姿のインド全土からの出席者で、内119人が海外26カ国からの参加者でした。内容と規模からも学術的な国際会議でした。日本からの参加者は、日本助産学会国際員会から２名（加納、大石）、日本看護協会から２名、他学会発表等の個人参加者が５名でした。最終日に各団体評議員により作成されたマニフェストが採択されました。その他詳細な報告は学会誌６月号にて行う予定です。

アジア・パシフィック地域の助産師と女性の権利宣言

国連の2000年の開発目標の中には、妊産婦と子供の死亡率や罹患率を下げるという目標が掲げられている。そのため、WHO、UNICEF、UNFPA（世界人口基金）等の国際組織も、母子保健には助産師を主要な伝い手としなければならない、という考え方を認め、助産師養成・確保を援助する政策をとり始めている。そのような環境もあり、アジア・パシフィック地域の各国助産師関連団体も、助産師の教育の量と質の確保に力を入れているようであった。

また、現在のICM本部の三大方針も１．教育の強化、２．組織の強化、３．規定の作成である。そのような流れの中で、大会３日目に各国代表者の会議が召集され地域代表のカレン・グリランド氏を中心に、アジア・パシフィック地域としてのマニフェストのような内容を作成していくことが提案された。参加国の中には、助産に関する国の規定・法律がない国も多く、きちんと助産師を国の規定の中で認めさせていくこと、さらにはそれらの法律や規定を作成する意思決定プロセスに助産師を参加させるべきである、という意見が述べられた。それらの意見に対し、リンチICM会長からそれらを助産師の権利という言い方にまとめ、行政機関に働きかける時に、宣言された権利として使用できるようなものにしたらどうか、との提案があり、最終的に９項目の「助産師と女性の権利宣言」としてまとめられた。９項目は下記の通りであり大会最終日の閉会式で公開、確認された。この権利宣言は、各国の政府や行政機関に働きかける時に、役立つようにとＡ４版一枚に簡潔にまとめられており、日本でも、ICMアジア・パシフィック地域大会で正式に宣言された女性と助産師の権利として、政府機関・行政との交渉に役立てることが期待される。

助産師と女性の権利章典

1．すべての女性は出産の際、能力のある自律した助産師からケアを受ける権利がある。
2．すべての新生児は、健康で情報をよく与えられた母親をもつ権利がある。
3．すべての助産師は、自律した健康の専門家として、認識され尊重され支持される権利がある。
4．すべての助産師は、助産師としての能力を獲得するための助産に特化した助産教育を受ける権利がある。
5．助産師と女性は、女性と家族のための安全で能力がある自律した助産実践を保障する規則の体系を持つ権利がある。
6．すべての助産師は、ICMの定義と助産実践の範囲にもとづいて自身の責任で実践する権利がある。
7．助産師はその国の助産と母子保健政策や福祉に貢献する強い助産師会を持つ権利がある。
8．助産師と女性は母児のニーズに見合うだけの十分な数の助産師を確保する国家的な労働力計画を持つ権利がある。
9．助産という専門職は看護からは独立した別個の職業であると認められる権利がある。
10．女性と助産師は、健康と教育に関わる政府と政府機関によって尊重される権利がある。（訳:大石時子）

# ♪外国の学会もいいもんだ～♪～ＩＣＭアジア・太平洋地域会議に参加して～

三重県立志摩病院　助産師　下　村　孝　枝

ICMアジア・太平洋地域会議は、平成21年11月19日～22日の４日間に渡り、インド・ハイデラバード市のマリオットホテル会議センターにて開催されました。21カ国約500名が参加されており、色とりどりのサリー姿のインド在住助産師達にうっとりしながらの基調講演、ワークショップ、研究発表などで、とても勉強になりました。しかし、私の本当の目的は別にありました。

＜会議に参加するきっかけ＞

10年くらい前、青年海外協力隊に憧れ幾度も説明会に足を運び、そのために英会話も勉強しました（もう忘れちゃってましたが）。健康診断を受け、申し込みの段階でエジプトの銃弾事件があり、家族に猛反対され断念した経緯があり、結婚して２児の母になってもその夢は持ち続けていました。映画「プルミエール」が上映され、ますます'実際に行って五感で感じたい'と強く思っていた矢先、日本看護協会の職能会議でこの大会を知り、そのチラシの内容にオプションで「地域助産の実践見学」なんてことが書いてあり、とてつもなく行きたい衝動にかられたのです。

しかし、外国旅行の経験は新婚旅行と友人との近場の経験でしかなく、直接インドの看護協会申し込みなんてホームページを見ても英語だらけでわからず勇気もないし、どこかにツアーがあるはずだという信念でネットサーフィンの末、日本助産学会のツアーを見つけたのです。

＜病院の現状＞

私が働いている三重県立志摩病院は、現在産婦人科医がいません。３年前、三重大学から派遣されていた産婦人科医が撤退し、半年後愛知県から産婦人科医が来てくれて再開できたものの２年間のみでした。幸か不幸か、院内でお産がないので　１週間お休みすることができたということもあります（かなり理解のある師長さんとスタッフだったということも付け加えておきます）。今は精神科病棟で働きながら、院内の助産師外来に交代で入り、院外では志摩市の小・中学校で「いのちの授業」を月に４～５件行っています。医師不足で病院の存続も危ぶまれる中、助産ができない病院で助産師がどのような活動をしていったらいいのか、何かヒントをもらえるんじゃないか、という期待もどこかにあったと思います。

＜会議に参加して＞

４日間のホテル缶詰め生活が終わり、23日ようやくオプショナルツアーの日になりました。当日になりツアーができないという話しも出たりしましたが、参加者の熱い思いで決行。車に乗って午前は病院見学でした。分娩直後の母子や陣痛室での様子など、施設見学が主でしたがまるで戦後の日本のような風景に、懐かしい感じと驚きが入り混じった不思議な感覚がありました。午後からはさらに車で４時間くらい移動し、念願の地域の保健センターに到着しました。保健センターには分娩室と相談室、処置室、トイレ（コンクリートで囲われていてまるで精神科病棟の保護室様な雰囲気でした）があり、壁にはコブラに注意という恐ろしいポスターが貼ってありました。担当職員さんがいろいろ説明をしてくださいましたが、私はそこに住んでいる人に触れたくてコブラに注意しながら？保健センターの周りの村の中に入っていきました。全人口100人位の村でしたが、家が密集していてコンクリートの迷路のようでした。家の周りにサリーが干してあったり、ちょっとした駄菓子屋があったり、今では的屋でも見かけなくなったひよこが親鳥と一緒に走っていたり、見るだけで癒される空間でした。

カメラでその風景を撮っていたら、小学校４年生くらいの女の子が乳児を抱いて私の前に現れました。カメラが珍しかったのか私に現地語で話しかけてきます。とまどっていたら何世代かたくさんの家族が家から出てきました。そして、わたしの左頬の大きなほくろが乳児のイスラムの印と一緒なので不思議がって集まってきて、でもとてもウエルカムな態度でたくさん写真を撮らせてくれました（頬にほくろがあって得したと思った、親に感謝です）。たくさんの現地の母子と触れ合って、この地域を守っているのは家族の強いつながりなんだという確信とインドの雰囲気に引き込まれていきました。

＜珍道中＞

ハイデラバードの市内観光では道端にいる馬をらくだと間違えたり（馬の背中にこぶらしきものがあった）、牛をやぎと間違えたり（かなり痩せているので）、乗っている車がしょっちゅう他の車に衝突してひやひやしたり、お土産を値段交渉して楽しんだり、空港では自分の名前が放送で呼ばれて慌てたり、約束していたホテルの送迎がなくて焦ったり、飛行機でスチュワーデスさんにインド人と間違われたり、最後に生水飲んで胃腸炎に苦しみながら帰国したりしながらの旅でした。

＜帰国後＞

帰国してからはさっそく「いのちの授業」で子ども達に話し、保護者向けの講演会でも写真を使って育児について語っています。地域の方からはいろんな質問がきたり、興味津々で聞き入ってくれます。とても貴重な、いい経験でした。

2011年の南アフリカの大会、今から貯金して参加しようと思っています。皆さんも一緒に参加しませんか？

# プレコングレス国際助産協働セミナー案内とラオス国スタディツアー案内

国際助産協働委員会　毛　利　多恵子

毎年学術集会のプレコングレスとして国際助産協働セミナーを開催するようになって３年目を迎えます。国際協力活動に関心のある助産師たち、国際医療協力の経験のある助産師たちが交流でき国際助産協働とは何かを問う機会になればと思っております。３月に行われるセミナーとラオス国スタディーツアーについて紹介します。

① 国際助産協働セミナー（第24回日本助産学会学術集会プレコングレス）

2010年３月19日17時～20時半、つくば国際会議場４階

ラオス国での活動経験がある助産師たちからの話題提供と松岡悦子氏による講演「日本の助産師の今とこれから」。他国の国際協力をする前に、まずは自国である日本の助産師の歴史と現代と将来をよく理解することが必要と考え企画しました。（当日受付もしますがなるべくFAX予約を！同封ちらしご参照下さい）

② ラオス国スタディーツアー（満員となり申し込みを締め切りました）

2010年３月22日から30日までラオス国を訪問します。委員を含めて15名のツアーとなります。

下記のようなスケジュールとなりました。ラオス国における日本助産師たちの活動の実際を視察し意見交換をしたり、ODAや国際機関による母子保健分野の国際協力の実際の一部を視察します。

ラオス国スタディーツアー日程

| ３月 | 午前 | 午後 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 22日 | 日本出発 | ビエンチャン到着 | ビエンチャン市泊 |
| 23日 | JICAラオス事務所<br>国立母子病院視察<br>セタテラート病院(大学病院)視察 | JICA看護助産人材育成PJ視察<br>JICA保健セクター事業調整能力強化事業<br>UNFPA(国連人口基金)事務所 | ビエンチャン市泊 |
| 24日 | 地域母子保健改善ボランティアプロジェクトの活動先訪問(ビエンチャン県病院や地域村落巡回先) | カムアン県へ専用車にて移動<br>夕方カムアン県タケク着 | カムアン県泊 |
| 25日 | カムワン県保健局表敬<br>カムワン県立病院視察 | 看護学校訪問<br>ISAPH(NGO)訪問 | カムアン県泊 |
| 26日 | ISAPH活動視察<br>セバンファイ郡保健局・郡病院視察 | 自由行動 | カムアン県泊 |
| 27日 | ヴィエンチャンへ専用車にて移動 | 移動 | ビエンチャン市泊 |
| 28日 | ルアンパバーンへ移動 | ルアンパバーン着、自由行動 | ルアンパバーン泊 |
| 29日 | 自由行動 | ルアンパバーン発バンコク経由 | 機内泊 |
| 30日 | 日本到着 | | |

# 平成21年度「NICUに入院した新生児のための母乳育児支援セミナー」開催報告

研修・教育委員会　高　田　昌　代

平成21年度の「NICUに入院した新生児のための母乳育児支援セミナー」は、平成21年９月５日（土）、６日（日）に日赤看護大学、日赤助産師学校において開催いたしました。翌週には、日本新生児看護学会が広島にて同セミナーを開催されています。

東京会場では助産師34名を含む74名の参加があり、ガイドライン各項目の必要性とその具体的な方法の講義をはじめ、用手搾乳法、電動搾乳機の使用方法等の演習、グループ討議などの多彩なプログラムが展開されました。講師には、広島大学の横尾京子教授、あわの医院助産師の粟野雅代氏、神奈川県立こども医療センターの大山牧子医師などの、NICUと母乳栄養に関わる専門家の方々に担当していただき、参加者の意欲の高まりを肌で感じつつ２日間のセミナーが終了しました。

セミナー内容は、常にup-to-dateであり、かつ日本新生児看護学会と共に出している「NICに入院した新生児のために母乳育児支援ガイドライン」10項目の説明に動画が取り入れるなど昨年のセミナーからもあらゆるところがバージョンアップしており、参加者は高い満足感を得ていました。

今回、参加者に配布されたガイドラインの要点解説冊子は、本年度中に本学会ホームページにアップしますので、ご活用ください。来年もセミナー開催を計画しています。NICU収容児を理解した上で母親への母乳ケアを行う助産師には必要な知識・技術ですので、ふるってご参加ください。

＊＊＊本学会では下記の募金を受付けています。会員の皆様のご協力をお待ちしています。＊＊＊

☆ ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金) ☆
発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。
一口　2,000円
振替口座番号：００１９０－８－７１０９３１
加 入 者 名：日本助産学会国際基金

☆ セーフマザーフッド基金 ☆
世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における助産知識の発展を支援する募金です。　一口　1,000円
振替口座番号：００２４０－８－６８１８
加入者名：日本助産学会ICMセーフマザーフッド基金

皆様の暖かいご支援とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 事務局からのお知らせ

| お知らせ事項 | 内　　容 | 方法・連絡先　等 |
|---|---|---|
| 平成22年度年会費納入について | 日本助産学会は皆様の会費で運営しています。12月上旬に“次年度会費納入のお知らせ”“登録状況の知らせ”を送付しました。円滑な事業推進のため、会費納入を４月末までにお願いします。会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞ります。<br>また、学会誌投稿（共同研究者含）、学術集会演題応募（共同研究者含）、研究助成応募（研究代表者）等は、会員で該当年度の会費納入済みが条件になります。応募される場合は、お早めに会費納入をお済ませの上ご応募下さい。<br>ご不明な時は、事務局までお問い合わせ下さい。<br>＜口座引落としに関して＞<br>次年度の引き落とし日は、平成22年４月５日に変更しました。引落とし間近の口座残高のご確認をよろしくお願いします。口座変更、退会のため引落とし停止を希望の場合は、お早め（遅くとも2月末まで）に事務局までお知らせください。<br>＜郵便振込みに関して＞<br>郵便振込み先および他銀行振込み先は、右記の通りです。通信欄に会員番号と納入年度の記載をお願いします。<br>年会費支払方法については、口座引き落としと郵便／他銀行振込の方法がありますが、事務局では、振込忘れや振込の手間を省ける口座引き落としをお勧めしています。<br>引き落とし手続き書類が必要な場合は事務局までご連絡ください。 | ★郵便振込★<br>【口座記号番号】<br>００１００－５－８３２４４<br>【加入者名】　日本助産学会<br>【年会費】　10,000円<br><br>★他銀行からの振込み★<br>ゆうちょ銀行<br>〇一九(ゼロイチキュウ)店<br>（当座）　００８３２４４<br>日本助産学会 |
| 変更届について | 住所・所属等の変更や退会希望の場合、変更・退会届の書式は問いません。必ずお早めにお知らせください。学会誌等送付にはクロネコメール便を利用しますので、転送届けをしても届かない場合があります。変更届は必ずお出しください。<br>また、ご自宅ポストの表示がない場合も届きませんので、表示もよろしくお願いします。<br>学会誌等が届かないような場合は事務局までご一報ください。 | 【連絡方法】<br>Fax・はがき・Email等に明記してご連絡下さい。<br>JAMホームページの変更・退会届をダウンロードできますのでご利用下さい。 |
| 退会時のご注意 | 次年度から退会希望の方は、必ず１月末までに退会届のご連絡をお願します。<br>退会連絡がない限り会員継続となり、年会費をお納めいただくことになります。<br>会費納入後の退会の会費については、[会則　第７条（三）納入された会費はいかなることがあっても返還しない] とあるようにお返しできません。特に口座引き落としの場合で退会希望される方はご注意ください。<br>十分にご理解頂きたくお願い申し上げます。 | |
| 学会誌バックナンバー書籍販売 | 送料は申込者負担で配布中です。在庫に限りがあります。<br>＊学会誌バックナンバー：<br>第１～17巻　無料、第18～21巻　2,500円／部、第22巻以降　3,500円／部<br>＊「マタニティケア政策をめぐる国際比較」国際シンポジウム　500円／部<br>＊「女性とともにつくるお産と政策」ニュージーランド助産システム　500円／部<br>＊「日本助産学会委託研究・学術奨励金助成研究報告書（第３号）」　100円／部 | 【申込方法】<br>JAMホームページの専用申込書をダウンロードし、FAX・E-mailに添付し送信してください。 |

☆　お問い合わせ先　☆
日本助産学会事務局　〒111－0054　東京都台東区鳥越２－12－２　日本助産師会館３階
Tel&Fax：03－3866－3032　　E-mail：jam1987@ninus.ocn.ne.jp
JAMホームページ：http://square.umin.ac.jp/jam/

円滑な事業推進にご協力下さいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。